



ウグシクだより
ウグシク(御城)とは首里城のことです。
元々は歌謡ですが、首里城にはうぐしを親しみを込めて
この呼び方を使います。

開催期間

平成23年 10月28日(金)～11月3日(木)
2011年

テンベストで話題となった琉球王朝を体感する7日間！
首里城で生まれた華やかな琉球舞踊や史実をもとにした冊封使行列・冊封儀式に琉球王朝絵巻行列など、
この機会にぜひ琉球王朝時代を堪能してみませんか。

催事日程

一 伝統芸能の宴	二 琉球王朝絵巻行列
日時 10月28日(金)～30日(日)	日時 10月30日(日)
場所 首里城公園(下之御庭)	場所 那覇市国際通り
首里城で生まれ育まれた「琉球舞踊」と地域に伝わる伝統芸能を披露いたします。	国王・王妃行列を始め、冊封使行列、様々な芸能舞台で構成された総勢約1,000名の「琉球王朝絵巻行列」は圧巻です。

三 琉球王朝祭り 首里「古式行列」

日時 11月3日(木)文化の日	四 万国津梁の灯火と地域伝承芸能の宴
場所 首里城公園～龍潭通り～鳥堀交差点	日時 10月29日(土)・30日(日)
正月の三日、国王が首里周辺の三つのお寺を参詣する初行幸の儀式「国王御三ヶ寺参詣行列」再現を行います。	場所 首里城公園龍潭周辺

五 冊封使行列・冊封儀式

日時 10月29日(土)	場所 首里城公園(守礼門～御庭)
--------------	------------------

「冊封」とは、中国皇帝が周辺諸国に使者を派遣し、皇帝の名のもとにその国の王を任命すること、またはその儀式を言います。国王の任命式である琉球王国の最大の儀式を再現します。

■主な展示品

黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵
料紙箱・硯箱

くろうるしぶどうりすらでんはくえりょうしばこ・すずりばこ

葡萄と栗鼠を螺鈿と箔絵技法で描いています。たわに実った葡萄と、子供をたくさん産む栗鼠は多寿・多福をあらわすおめでたい模様で、琉球漆器にはよく使われる図案です。



黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵八角盆

くろうるしぶどうりすらでんはくえはくはん

葡萄と栗鼠は、琉球漆器によく使われる模様の一つで、夜光貝などを用いた螺鈿細工と箔絵の技法で葡萄・栗鼠を描いています。



3回連続企画の第2弾 首里城公園企画展 《首里城のデザインⅡ》

～葡萄と栗鼠 王の玉座を飾った異国の模様～

日時	平成23年 10月7日(金)～12月22日(木)
場所	首里城公園 有料区域 南殿二階 特別展示室
企画の内容	約450年の間、琉球王国の象徴であり、琉球の人々が世代を経て崇め敬っていた首里城正殿。その正殿で使われた模様の中から、玉座を飾る「葡萄と栗鼠」模様でデザインされた琉球漆器を、ぜひご覧下さい。

首里かわらばん 第21号

2011年10月発行

編集

首里かわらばん編集会議

発行/事務局

NPO 法人 首里まちづくり研究会
903-0812 那覇市首里当蔵町 2-13
TEL098-963-9294
http://happy.ap.teacup.com/suimachi/

協力

78 タイフーン FM (周波数 78.0MHz)
903-0824 那覇市首里池端町 34 2F
TEL050-3539-1178 FAX098-882-2400
http://www.fmnaha.jp/

タイトルデザイン 石原左内

● 編集後記 ●

玉陵の石垣にオレンジ色のクワンソウ(アキノワスレグサ: 開花時期9～11月)が咲き始めました。昔から安眠効果があると言われるクワンソウは、酢漬や汁物、天ぷらなどで食します。百合のように美しい花は鑑賞用にもおすすめです

※編集会議では、首里地域の皆さまの情報提供をお待ちしております

バックナンバーのお知らせ

■首里かわらばんのバックナンバーがホームページでご覧になれます。

首里地域情報ポータルサイト「e 首里ドットコム」
URL <http://www.e-sui.com/>



■お問合せ
事務局
TEL 963-9294

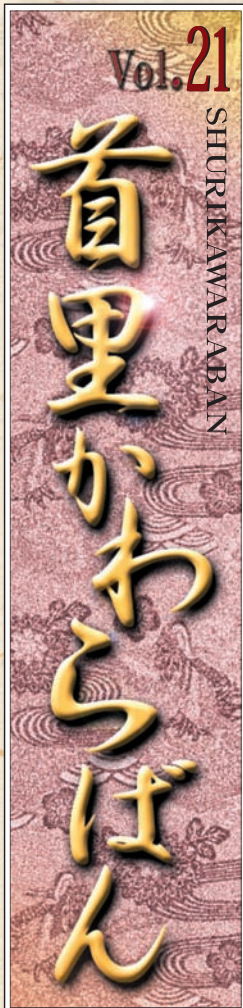
■1号 石畳のまち首里金城町 ■2号 城下町のメインストリート龍潭通り ■3号 首里の旗頭
■4号 首里の伝統菓子 ■5号 首里三箇のまちづくり ■6号 備後駅周辺エリア
■7号 琉球の宮廷音楽 ■8号 真和志今昔 ■9号 寒水川・「水」への感謝でつながる絆
■10号 フクギとともに愛される紅型(山川町) ■11号 旗頭に魅せられた男たち(桃原町)
■12号 大中(ウフチュン)の歴史を見守り続けて(大和中町) ■13号 首里城は世界で最も大きな漆器
■14号 結束力に支えられて広がる当蔵のまちづくり ■15号 歴史と地域を守り継ぐ青・良町獅子舞
■16号 「先を読む力」で和を結ぶ鳥堀のまちづくり
■17号 子どもたちが誇りを持てる故郷づくりを(首里石壁町北堀会)

特集

静かに出番を待ち続ける大太鼓

久場川町『延賢太鼓』

首里には、かつての王都として落ち着きあるたたずまいと歴史文化があると共に、
たくさん魅力ある首里人(すいんちゅ)がいます。
この首里かわらばんでは、地域で活躍している人たちを紹介していきます。



久場川町青年会顧問
新城安誠さん



久場川町の「同楽苑」と呼ばれる御殿には、美しい琉球庭園の中に延賢橋という橋があったと言われています。その名が由来の久場川町の旗頭『延賢同楽』と『延賢太鼓』の活動を支える新城さんにお話を伺いました。

途絶えていた旗頭を復活

毎年、『琉球王朝祭り首里』で勇壮な演舞を見せてくれる久場川町の旗頭「延賢同楽」。途絶えていたその姿が復活したのは今から二〇年前、新城さんが四〇歳の頃だった。「三九歳の時に仕事に大きな感電事故に会い、生死も危ぶまれる状態でした。その時、地域の人達に大

変お世話になり人の繋がりに感謝する気持ち強く持ちました」退院後、地域活動に熱心に取組むようになった新城さんは、二〇代の頃に挙げていた旗頭を仲間と共に復活させた。「旗頭を始めたものの人集めに苦労していました。もっと魅力のあるモノが必要に思い太鼓も加えようと考えたのです」

太鼓作りからはじめた活動



大太鼓は、10月に開催される「全島旗頭フェスティバル」のフィナーレを飾る和太鼓チームへの貸出が決まっている

深紅のロープが印象的な『延賢太鼓』の大太鼓は口径三尺以上(約100cm)、重量は百キロを超え、その迫力ある姿に圧倒される。さらに、制作したのは新城さんご自身と言うから驚く。「太鼓作りの経験は無く、締太鼓を作る要領で仕事の合間に半年かけて完成させました。公民館でお披露目した時の反応はものすごくバッチリでしたよ(笑)」演奏指導は大東太鼓を知る青年会OBから受けられることになり、こうして『延賢太鼓』の活動がはじまった。町会の行事や首里文化祭で演奏を続け、平成十五年に開通した「ゆいレール首里駅」の祝賀イベントでは迫力ある演奏が話題になった。ご自



日が来ると思っています」と活動の再スタートを願う新城さん。その後ろには、静かに出番を待ち続ける大太鼓の姿があった。

町に太鼓の音が戻る日を願って

身も演奏に参加していたものの、十年前に訪れた大名老人ホームの慰問公演で兼務していた「瑞雲」の旗挙げ中に腰を痛め、旗も太鼓も現役から引退することになる。そんな中、新城さんの悩みがまた蘇ることに。「結局、太鼓も旗と一緒にした。人が定着しなくなってきたんです」仕事の都合や、友人関係で他町に参加する者も多く、再び活動が停滞するようになってしまった。

太鼓をはじめて十五年、演奏をできる青年はわずか三人となった。習いたいという後輩はいるものの、練習も指導も休止状態だと言う。「働き盛りの年代が地域活動に参加する難しさは私も経験してきましたから。起ち上げよりも継承していく事が難しい。歯痒さから『大太鼓は処分するぞ!』と言ったりもするけれど、また太鼓の音が聞ける